

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム さくら		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 1 日	評価結果市町提出日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470200938-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 8 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲に緑もあり、春には桜の咲く自然と学校・住宅も近くにある環境に当グループホームはあります。また、敷地内に在宅介護支援センター・デイサービス・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・サテライト特養が併設されており、協力体制もあります。ケアの面では、ご利用者1人ひとりの特徴をつかみ、その方に合ったケアを行うように心がけ、たくさんの笑顔を引き出すようにしています。また、外気浴や行事にも力を入れ、楽しく過ごしてもらるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員はいつも笑顔で対応し、会話を多くする機会を作り、今までと同じ様に生活が送れるように支援している。また、離れていても以前と変わらない家族との絆を築く様に、最後までこの場所で人生を全う出来る場に、なればいいな—という強い思いで支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「1人ひとりを尊重し、笑顔あふれる家」を理念とし、ご利用者の小さな変化に対しても職員間で話し合い、情報の共有に努めている。	日常、理念に添ったケアが行なわれているかどうか、その状況を見てその時その時に職員間で振り返っている。玄関に職員が描いた数々の絵画で取り巻き、飾るように理念を掲げている。また、無理おいせず利用者が自由に話せる機会を多くする支援に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今も音楽療法を通じて、近くの施設との交流を続けており、音楽療法の開催場所も同敷地内のデイサービスに同意をいただき、デイのご利用者とも一緒に参加して頂いている。	運営推進会議は、各地区自治会長、民生委員の数多くの出席者があり、交流する絶好の場と考え行動している。また、各市内中学校から毎年、職場体験がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験を受け入れることで、学生さんに認知症についての理解と支援の方法を知ってもらうようにしている。また、見学にみえた方にも説明と質問に答える事で認知症を知るきっかけになるように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告や行事・ご利用者の様子の報告を行い、会議の参加者から頂いたご質問やご意見に対し、改善すべきことには改善するように努めている。	特養老人ホーム、デイサービスと合同で開催しているが、各地区自治会長、民生委員からグループホームの具申事項、質問、意見を取り交わし情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接の連携は取れていないが、緊急情報・研修の案内はいただいている。また、分からない事があれば、電話にて連絡する体制である。	法人本部代表が定期的に訪問し、情報交換している。ホームとしての直接の連携は、市担当者と運営推進会議での意見交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が拘束になるのかを確認したり、話をしたりして拘束しないケアを行っている。玄関の施錠については開錠して玄関にみえたご利用者への声掛けで対応できている時もあったが、外出の願望が強い方が見え試行錯誤の状態である。	法人内の身体拘束委員会に年1回参加し、拘束をしないケアの実践を理解している。外出願望の利用者は職員と会話をし、気分を落ち着かせたり、メモ書きの手紙(家族からの手紙風)を書いたりして安心感を取り戻す支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とはどんなことか確認として、虐待のないケアを行っている。また、ご利用者の様子観察を行い、連絡を密にして異常の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用しているご利用者がみえる為、制度について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書をお渡しし、職員も同席して内容を読みながら説明し、分からないことや不安なところについて質問を受け、答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話をいただいたご意見に対して、改善する努力をしている。	家族の面会時に意見を取り入れている。言いにくいことがあれば後日、電話で伝えてくる家族もいる。最近では、職員の対応について意見があり、検討した。また、介護相談員を受け入れ情報収集に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や日常的に意見を出してもらったり、連絡帳を活用して意見や提案をもらうようにしている。そして、その意見や提案を責任者に報告している。	常、日頃の支援の最中、また、食事休憩時の雑談の中でも話す機会がある。連絡帳にも記入する事があり、不定期ではあるが本部署上司と意見交換する機会もある。浴室のタイルが冷たいのでマットを提案し採用された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者は、管理者からの報告だけでなく、時々グループホームにきて、職員の話聞き把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修があり、参加は自由であるが、ほとんどの職員が参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の研修内で知り合った同業者の方に、ケアのあり方や職場のあり方について、積極的に話しかけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で本人の思いや状態の把握をし、職員に口頭で報告と連絡帳への記入をして情報の共有に努め、笑顔で接する等で不安の解消を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学にみえた時や実態調査時にご家族の今までの苦労等を共感を持って聞き、安心して何でも話をしてもらえるような雰囲気になるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者のケアマネージャーさんと連携を取りながら、その方にあったケア・サービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者にとってもう一つの家族、嫁・娘・孫として、時には友人として接し、一緒に家事をしながら多くの事を学んだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と外出・食事に出かけられたり、ご家族が見守られる中で介助をしたり、ご利用者の希望を叶える為にはご家族に協力を求めたりして、共にご利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者と馴染みの場所への外出や外泊をすすめている。また、職員が付き添って馴染みの場所に行くこともある。	友人・知人が尋ねてきたり、以前、利用していた食堂へ行ったり、家族に会いに行く為の外泊支援を行っている。職員間で把握を行い、入居後情報表を作成して共有してる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が仲良く暮らせるようリビングの席を考えたり、ご利用者が手助けしているのを見守りながら、必要時には職員が介入しながら良い関係性が築けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されても、様子を伺いに行ったり、行事にきてもらえるように連絡をするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されるまでの生活や習慣を把握し、ご家族と共に生活環境を整えたり、信頼される馴染みの中になることで、希望・意向をいってもらえるようにしている。	管理者・ケアマネジャーが入居前にアセスメントを行い、職員は散歩・入浴時・日頃の会話の中で掘み取り、申し送り・連絡帳で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族にご利用者の生活歴を聞くようにしている。実態調査時には、ケアマネジャーさんやサービス提供している職員さんからも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の体調・様子を個人記録に記録し、毎朝出勤者が読み、気になる事に対して話し合いをして状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、ご利用者の希望やご家族の意向を良く聞き、他の職員の情報も得ながら、ご本人本意のケアプランになるようにしている。	作成前にカンファレンスを開き、6ヶ月毎にモニタリング、評価を行い、状況の変化を含めて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、職員皆が読んで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に体調を崩したご利用者の受診の対応やご家族のみえない方の買い物の付き添い、必要物品の購入の代行(通信販売の注文代行)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人の方から月に2・3回、音楽療法に来てもらっている。また、同敷地内のサテライト特養の食堂で開催されるアクティビティに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医にご家族と受診してもらっている。また、ご家族の理解を得てかかりつけ医と直接相談をして適切な医療が受けられるようにしている。	全てのかかりつけ医の受診支援は家族に依頼している。緊急時は家族に連絡しかかりつけ医の指示を仰ぎ、事業所で受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内にある訪問看護ステーションに相談にのってもらったり、ご利用者の急変時には看てもらい適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてた時は、ご家族や病院関係者と連絡を取り合っ、協力病院との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を聞き、可能な範囲であれば住み慣れたグループホームで過ごしていただける説明をしている。また、対応が困難な状況になってきた時は、介護施設等の紹介を行っている。	契約時、医療体制が整っていないので事業所で出来る事・出来ない事を、口頭で利用者・家族に伝えている。その時の状態に応じて同法人グループでの対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修に参加して学んでいる。また、話し合いをする機会がある時に確認も含めて話をするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の施設との連携の確認を含めての通報訓練・避難訓練をしている。	特養老人ホーム、デイサービスと合同で年2回、通報・避難訓練を開催している。備蓄は3日分(食料、水)用意している。	年2回の訓練を基本とし、グループホーム独自のマニュアルを作成し、あらゆる想定の上訓練の機会を増やす事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「1人ひとりを尊重する」という理念をもって、また人生の先輩であるとの敬意をもって接し、声掛けを行っている。	親しき仲にも礼儀ありと考え、特に言葉使いには気をつけている。苗字をさん付けで呼称したり、トイレ誘導時も他の利用者にわからない様に小声で声掛けしている。居室も中間にカーテンレールを引きプライバシーを守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい過ごし方が出来るように、自己決定してもらえるような声掛けをしている。また、その人に寄り添って思いや希望をくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	音楽療法やアクティビティのお誘いはするが、ご利用者の意思を尊重して、好きなように生活してもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来ない方には整容に気を付け、服が汚れていたら着替えてもらうように声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたいものを聞いて買い物をしたり、好き嫌いのある方には別の食材を用いて対応している。また、食事の盛り付け、片付け等も一緒にしている。	利用者の好み・希望を聞いて食材を買い出し、職員が調理している。作る職員によって味・献立が違うので家庭の味が楽しめる。テーブルを半円状に並べ、利用者全員がお互い顔を向け合いながら食べている。また、対面キッチンの調理中のおいが漂い、一層食事を楽しめるものとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は、入浴後にポカリスエットを飲んでもらったり、外気浴中にジュースを飲んでもらったりして。また、食事摂取量が少なくなってきた方には、食べれるものを探したり、栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には歯磨きまたはうがいを勧める声掛けをし、その人に応じて見守り、声掛け、一部介助を行っている。また、義歯を使用している方には就寝時に洗浄剤使用での洗浄の声掛け、または介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況が低下してきても安易に紙パンツや尿とりパットを使用しないよう、また使用枚数が増えないようにトイレへの声掛けを行っている。また、職員間で排泄機能の低下を防ぐ介助方法はないか話し合うようにしている。	職員間でその人その人の状況状態を掴み、紙パンツ、パットを少なくする事を考えている。食事前にトイレ誘導をしていたのを食間にも声掛けし、誘導回数を除々に増やし、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防になるよう、野菜の多い献立になるようにしたり、バナナやヨーグルト・オリゴ糖も取り入れている。また、水分摂取量にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好まれない方には声掛けの時間をおいたり、言葉がけを工夫したりしている。また、一日おきと決めてみえる方にはそのように応じ、今日と言われた方にはその日に入浴してもらっている。	毎日、入浴出来る様に声掛けし、午後より入浴を行っている。その日に入浴しない利用者には職員を替えたり、誘い言葉を変えて入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を好まれる方・しない方、就寝時間を決めて眠った方・眠くなったら寝る方好きなようにされている。また、気持ちよく休んでもらえるようエアコンの温度に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに綴じ、いつでも見れるようにしている。また、処方変更時は業務日誌や連絡帳に記入し、職員が把握できるようにしている。そして、服用後の体調の変化・様子の変化に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・ゴミ捨て・配膳等個々に合った役割を持ってもらっている。また、百人一首・パズル・絵本読み等楽しみ方も個々に望まれるものを行ってもらうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に合った外出はなかなか応じられないが、散歩には応じるようにしている。	季節の花見(桜、バラ等)にドライブを兼ねて出掛けている。また、生ごみの放出、花壇の水遣りを日課としている利用者もいる。	外出は利用者にとって大切な支援の一つである。自ずと室内で過ごす事が多くなり気分転換、ストレス解消や筋力低下防止、見当識、五感の刺激の為に日々の散歩の他、事情が許される限り日常的な外出支援を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームではしておらず、ご家族と相談してご本人管理でもってみえる。また、外出援助(ヘルパー)を使って買い物に行かれ、好きなものを買ってみえる方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求があれば、かけてもらっている。また、手紙も要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品をご利用者と作り、飾って季節感を出すようにしたり、温度に気を付けている。	食堂兼リビングの壁には絵や行事の写真が掲示され、貼り絵、季節を感じる作品(七夕、クリスマス等)が飾られている。また、廊下の隅にはくつろぎの場が用意され、利用者同士の団欒の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アクティビティルームで1人ゆったり過ごされる方や、3・4人と時に職員も入って話に花を咲かせている姿をみかける。また、歌番組の録画を見て楽しんでみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族の希望があれば、家具や家電製品等持ち込めるようになっている。今まで使用して見えたものを持ってきてもらい安心して過ごしてもらえる空間作りに努めている。	すっきりとした印象の居室にはベット、クローゼット、洗面台が配備され、生活歴に添ったテレビ、整理ダンス等が持ち込まれ、様々なコーディネイトが楽しめる仕様になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室はわかりやすくなるように、表示している。		